

## 塚段古墳

辛川あかり

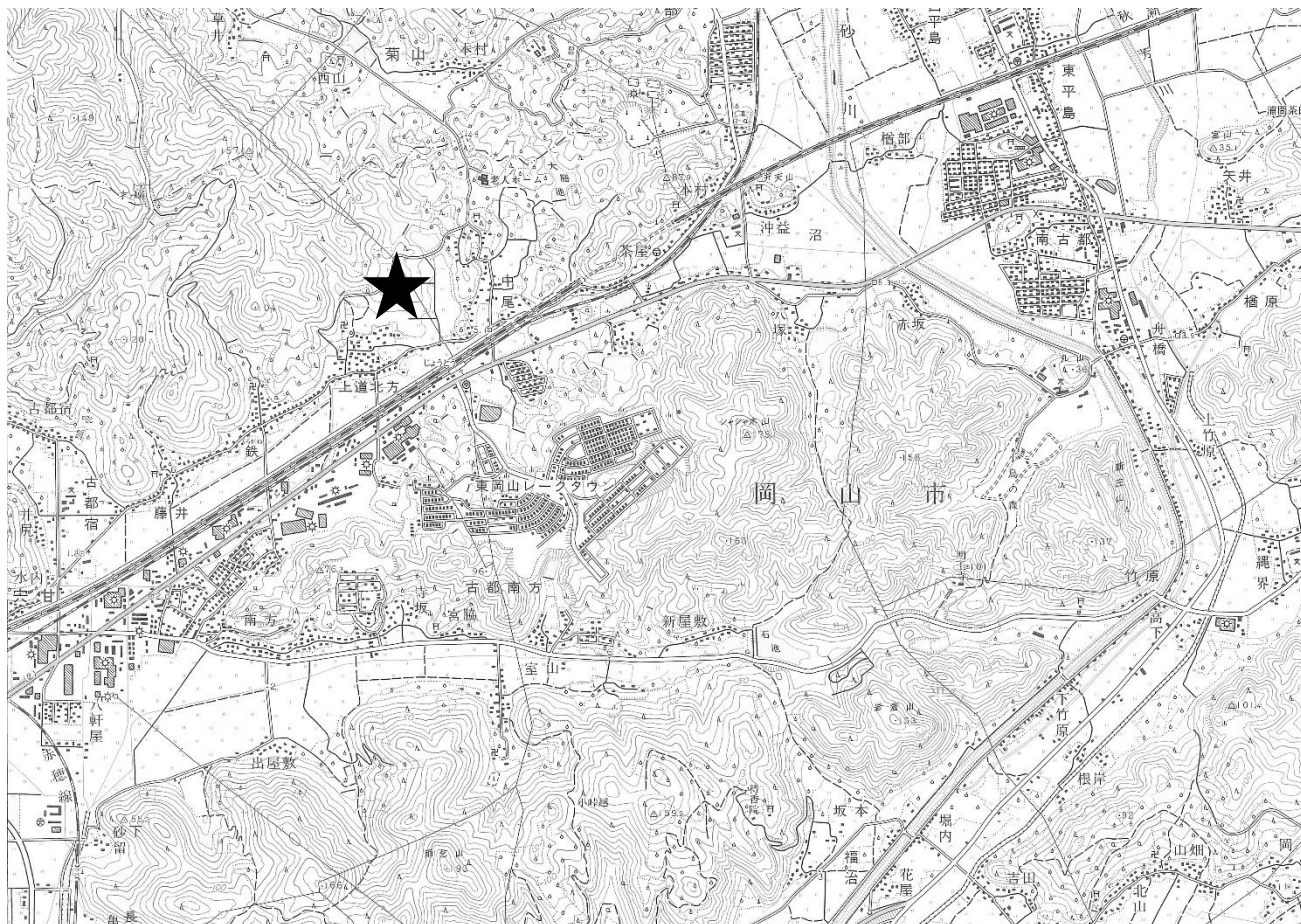


図1：古墳の位置

### 【遺跡の概要】

塚段古墳は岡山市東区上道北方にあった6世紀後半～6世紀末の古墳です。区画整備事業に伴い昭和60年～61年に発掘調査が行われました。当初は土壇状の地形ではあるが古墳として認識しておらず、「塚段遺跡」として発掘調査に着手しました。発掘調査の結果、石室石材の大半を抜かれた極めて残存状態が悪い横穴式石室が2基みつき、古墳時代後期の古墳であることが判明しました。墳丘は大きく削られ、築造当時の墳形は残っていないため、墳形に関する考察はしづらいですが、2基ある横穴式石室の間に両者が分断されていたことを示す周溝は認められなかったことから、両石室が同一墳丘に築かれた可能性が高いと判断されました。

2基ある石室のうち、北側を第1石室、南側を第2石室としています。両石室は石材採集のために破壊されていましたが、石室内埋土の残りは良好で、副葬品も数多く出土しました。それぞれの石室の特徴と主な出土品を紹介します。

## ○第1石室

後世の石材採集により大半の石材は失われていましたが、残存する石材と石室内埋土から、片袖式の横穴式石室であったことが判明しました。また、羨道部分には排水溝が掘られていました。

石室内埋土は上層と下層に分けられます。上層では奥壁付近に長さ1 mにわたって平石が敷き並べられていました。この敷石上から鉄釘が出土しており、木棺等が置かれていたと考えられます。下層では棺台に用いたとみられる角礫や副葬品が全体に散らばる形で出土しました。須恵器の時期に幅が見られることや、耳環が6対出土したことからも、追葬が行われていたと考えられます。木棺の痕跡などは残っていませんが、床面付近から出土した釘や鋸は木棺が置かれていたことを示しています。釘の中には頭部を丸くつくりだす形態のものがあり、この釘の特徴から、大和盆地南西部の勢力とのかかわりがあった人物が埋葬されたと推測できます。また、色鮮やかな玉類だけでなく、地中海東部または黒海沿岸が製作地である重層ガラス玉や、高い地位もしくは大和政権の重要な役職に就く人物であることをあらわす振り環頭大刀の一部である振り環が出土しています。

## ○第2石室

後世の石材採集により石材がほとんど失われており、石室の形態や規模は不明です。しかし、石室内の排水溝は、第1石室が羨道部までであるのとは対照的に、奥壁近くまでのび、石材を用いて蓋がされています。簡略化された第1石室に比べて丁寧なつくりの石室であったことがうかがえます。

石室内埋土は上層と下層に分けられ、上層では木棺の痕跡が東西2つ並んで検出されました。木棺床板の痕跡は石室築造当初の床面よりも15 cmほど高い位置で検出されており、木棺は追葬に伴うものといえます。東側の木棺は西側の木棺よりも大きく、出土した頭骨と遺物の位置から耳環とガラス小玉を首飾りとして装着した人物が少なくとも2人は埋葬されていたと考えられます。床面からは多量の須恵器と金銅製の馬具、鉄鏃が出土しています。

## ○塚段古墳の被葬者像

塚段古墳の近くにある中尾平山遺跡からは4基の炭窯と鉄滓が検出され、6世紀後半の須恵器も出土しています。中尾平山遺跡では、製鉄か何かしらの手工業生産がある程度の規模で安定的に行われていたと考えられます。周辺の遺跡環境と副葬品からみると、塚段古墳の被葬者は、「大和政権のバックアップの下で手工業生産を比較的大規模に取り仕切り、馬によってそれらの交易を行っていた首長」でありとイメージでき、重層ガラス玉や金銅製馬具、振り環頭大刀を所有していた可能性を加味すると、中小首長以上の付加価値をもつ人物であったと言えるのではないのでしょうか。

### 【参考文献】

岡山市教育委員会 2016『塚段古墳・坂口古墳』－重層ガラス玉を出土した後期古墳の発掘調査報告－  
安川満 1999「中尾平山遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要』1997（平成9）年度 岡山市教育委員会

### 【遺跡の位置】

JR 山陽本線 上道駅から徒歩約10分

※古墳は調査後破壊され、現在は畑になっています。

表1：石室の規模と出土品

		第1石室	第2石室
形態		片袖式	?
玄室	長	4.8m	長12m以上 幅2m以上
	幅	2.2m	
羨道部	残存長	1.45m	
	幅	3.6m以上	
排水溝	残存長	3.3m以上	13m
	最大幅	0.95m	1.25m
	深さ	0.05m	0.2m
棺		(木棺)	木棺痕×2
馬具		帯革飾金具・鞍金具 飾金具・鉸具・鏡板	金銅製轡・金銅製馬鈴 金銅製磯金具・飾金具 金銅製帯革飾金具・鏡板
武器	弓	弓金具	長頸
	鏃	平根・長頸	
	刀	振り環	
棺金具		釘・鏃	釘
玉類		ガラス製小玉・トンボ玉 丸玉(ガラス・瑪瑙製) 土製練玉・銀製空玉 水晶製切子玉・碧玉製管玉 勾玉(ガラス・瑪瑙・硬玉製) 埋木製棗玉・銀層ガラス玉	ガラス製小玉・丸玉 トンボ玉・碧玉製勾玉 水晶製管玉
装身具		耳環(金銅・銀銅製)	耳環(金銅・金製)
須恵器		杯身・杯蓋・有蓋高坏・高坏 脚付有蓋無頸壺・碗・器台・甗 提瓶・平瓶・壺・鉢・甕	杯身・杯蓋・有蓋高坏・高坏 提瓶・平瓶・碗・甗・小壺 鉢・短頸壺・長頸壺・裝飾付壺
農耕具		鉄鎌	刀子
		銅鏡	

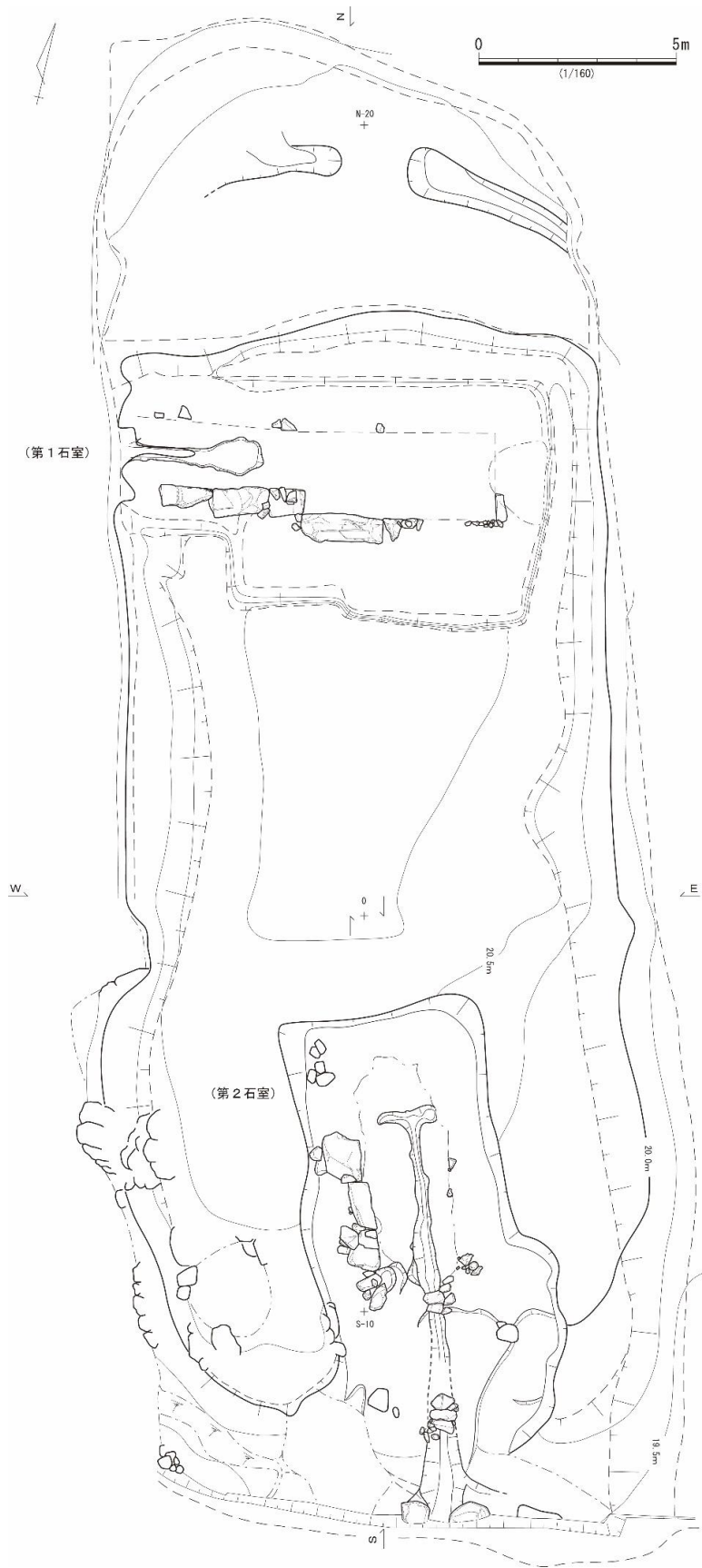


図2：古墳の地形と石室の位置  
 (図の出典：岡山市教育委員会 2016)

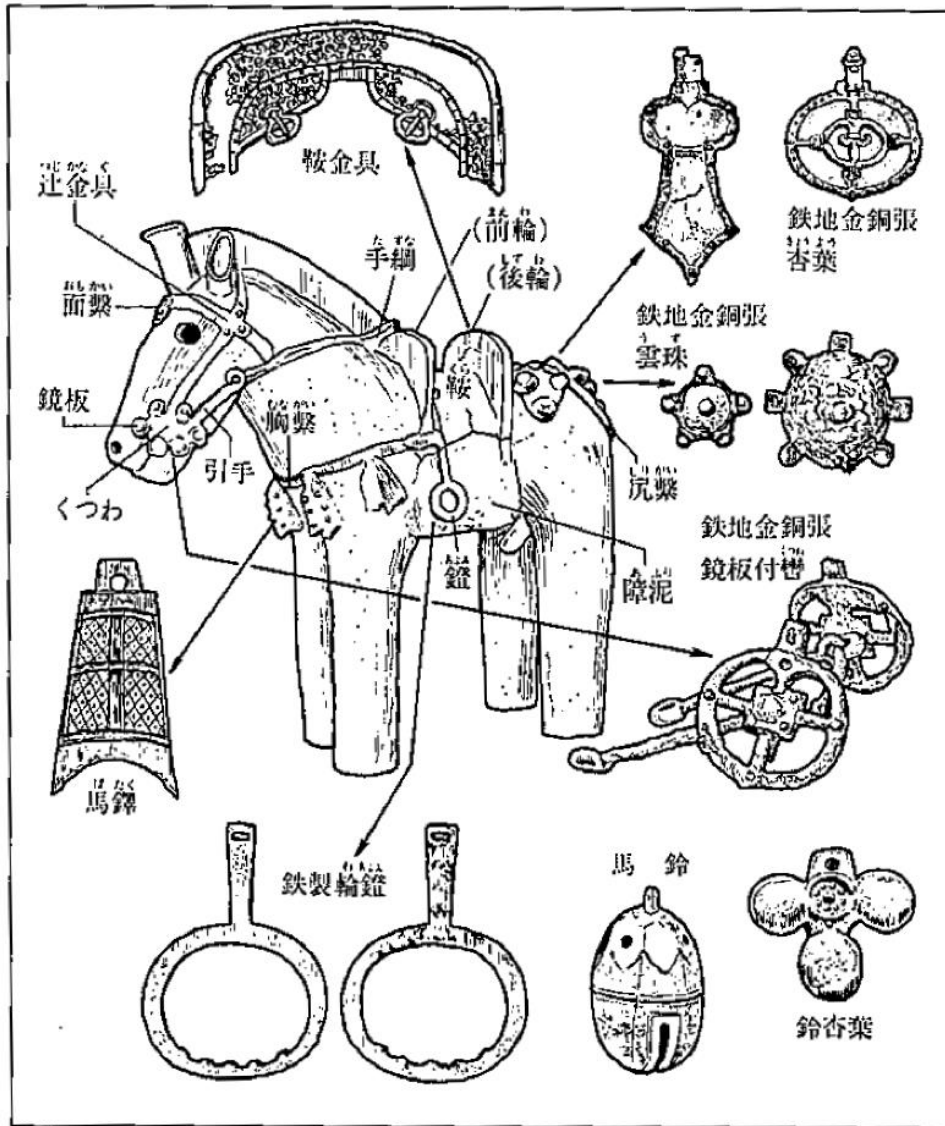


図3：古墳出土の馬具

(図の出典：野澤繁二 1990『図説 歴史散歩事典』山上出版社)

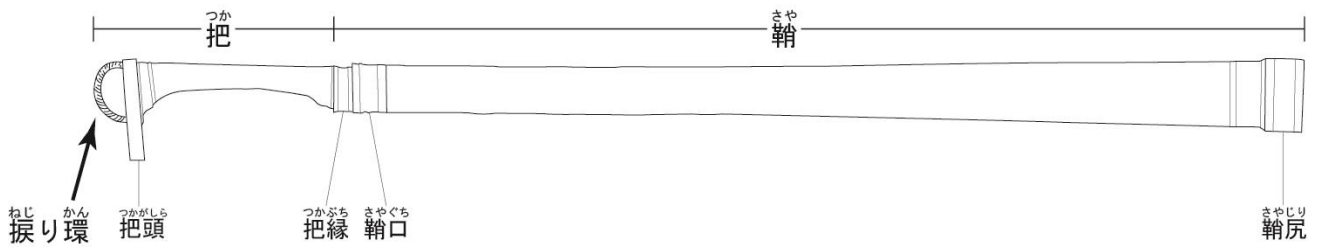


図4：振り環頭大刀





図5：中尾平山遺跡の位置

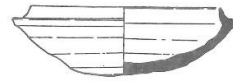
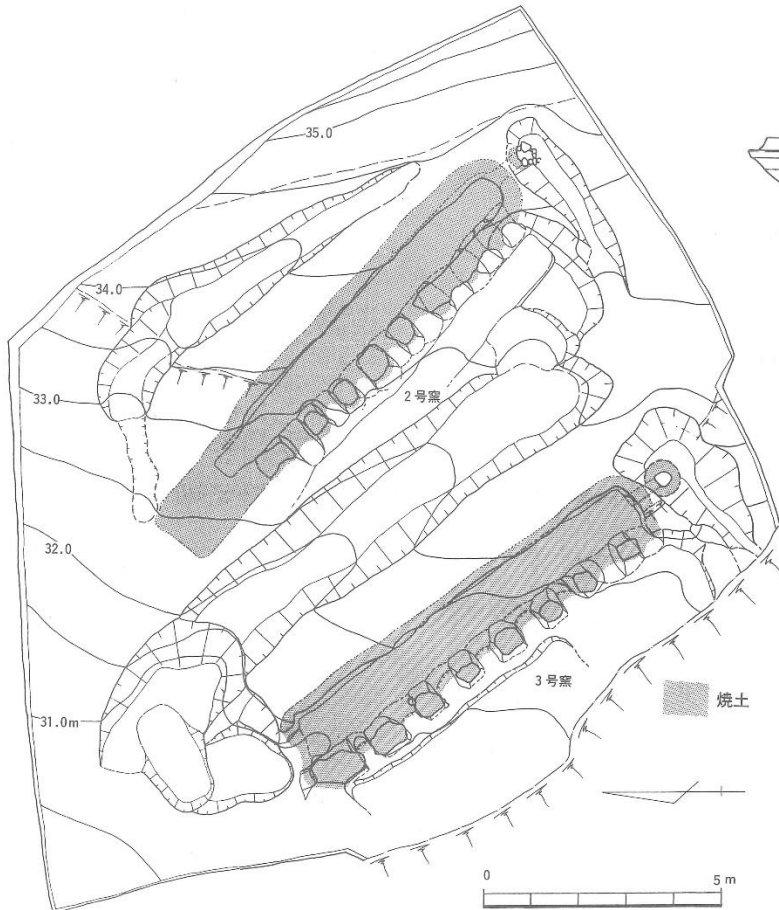


図6：中尾平山遺跡出土須恵器  
(図の出典：安川 1999)

図7：中尾平山遺跡  
(図の出典：安川 1999)